

シルバーしながわ

🌸 設立40周年記念特集号 🌸

シルバー世代の活躍と地域貢献を目指して



40



公益社団法人 品川区シルバー人材センター

目次

記念式典について	1
会長挨拶	2
品川区長祝辞	3
品川区議会議長祝辞	4
前会長祝辞	5
前事務局長祝辞	6
設立40周年記念式典	7
式典当日の様子、寄席ライブ	8
記念講演（公財）ダイヤ高齢社会研究財団 石橋智昭様	10
地区委員会 委員長紹介、地区記念行事	14
地区記念行事	
● 品川北地区	15
● 品川南地区	16
● 大崎地区	17
● 大井東地区	18
● 八潮地区	19
● 大井地区	20
● 大井西地区	21
● 荏原地区	22
● 中延地区	23
● 戸越地区	24
理事会、現役員紹介	25
事務局職員紹介	26
事務所紹介	27
品川区シルバー人材センターのあゆみ	28
近10年役員名簿	30
会員数・契約金額の推移	32
設立40周年記念事業実行委員会	33

設立40周年記念式典

平成29年6月16日(金)の午後、品川区シルバー人材センター設立40周年記念式典は、「きゅりあん大ホール」にて定時総会に引き続いて開催されました。

この喜ばしい式典を開催するまでの経過に触れますと、昨年(平成28年)の12月に40周年記念実行委員会を発足し、理事会から会長、常務理事、その他理事4名、地区委員長連絡会から5名、事務局から6名計17名が委員として参加し、延べ3回に渡って検討を重ねてまいりました。

記念式典については、シルバー人材センターと非常に関連の深いダイヤ高齢社会研究財団の石橋先生をお招きして講演会を開催する、その後、アトラクションとして落語など会員の皆様が楽しんで過ごせるような企画等を決定いたしました。

また、30周年事業と同様に記念品の贈呈と各地区の記念事業を実施することといたしました。その結果、各地区においては、日帰りレクや地区全体会での催し物など、それぞれの地区が熱心に取り組まれ会員の皆様の元気なお姿が各地区の活動として展開されたところです。

一方、記念誌については平成29年の1月に記念誌実行委員会を発足し和泉委員長など10名の委員で構成され、延べ6回の編集会議を経て作成いたしました。まず、表紙については各委員から構成、写真など多くの発案を募り、最終的には品川区の四季の移り変わりと品川区の花、鳥として選定されている「さつき」「ゆりかもめ」を配置し、親しみやすい落ち着いた雰囲気の紙面にいたしました。冊子の中身としては、定時総会に続いて行われた講演会、落語など記念式典の様子、地区記念行事、品川区シルバー人材センターの歩み、近10年役員名簿、現役員、事務局職員等の紹介など記念誌として保存できる内容に編集いたしました。最後に40周年記念品の「電波時計」の写真に掲載し、完成といたしました。

この間、実行委員の皆様には長期間に渡って、何度も編集作業に従事していただき、感謝を申し上げます。

おかげさまで、このような立派な冊子が完成し品川区シルバー人材センターに新たな軌跡を刻むことができたことを誇りにして、今後のセンターの充実発展を永遠に願いたいと思っております。

記 常務理事兼事務局長 久保田 孝之

表紙の写真

品川区の紋章をイメージしたマークの中の景色は、上段が品川区の鳥の「ゆりかもめ」、下段左が区の花である「さつき」、下段右が東大井支所近くの花海道「葉の花」です。

裏表紙の写真

「品川」の文字に併せて上段が本部近くの目黒川の「桜」、中段がやはり花海道「コスモス」、下段が荏原支部近くの星薬科大学入口の「いちよう並木」です。

会長挨拶

会長 岩澤 政善



品川区シルバー人材センター設立40周年の記念誌作成にあたって、一言ご挨拶申し上げます。

品川区シルバー人材センター設立40周年、誠にありがとうございます。

私は、この6月に新しく会長職に就任いたしました岩澤でございます。

このようなめでたい日々を会員の皆様方と迎えることができたのは、何よりも先達の方々の努力と汗の結晶の結果であり、そのご功績に深く感謝申し上げます。

また、今日の輝かしい実績を上げることができたのは、品川区をはじめとした関係機関の手厚いご支援があったからだと心より感謝申し上げるところでございます。

品川区シルバー人材センターは、昭和52年に高齢者事業団として発足して以来、現在では会員総数2,438人、契約金額12億5千万円、契約件数1万7千件とすばらしい成績を上げております。

しかしながら、このようなすばらしい成績を上げている一方で、時代の推移に伴って現在においては、いくつかの課題を抱えています。

まず、会員の減少傾向です。既に日本は超高齢社会に直面して、健康で元気な高齢者が社会参加を通じて活力のある社会づくりを担っていくことが増々求められております。シルバー人材センターもお仕事を通じて高齢者に生きがいと社会参加に貢献する受け皿として大いに期待されているところでございます。

ところが、品川のセンターも他のセンターと同様に団塊の世代が大量に入会してくるというような状況は乏しく、センターの中心になっていた層が80歳、90歳代になって高齢や病気で退会し、また企業の定年延長などの影響もあり入会会員が減少している状況が続いています。

センターの活動の様子や魅力を一般区民に広く訴えて、センターに入会を促す取り組みの強化

が喫緊の課題になっております。

次に、就業開拓の課題があります。これまでのセンターの就業の中心になっている請負等については、仕事を待っているだけの受け身の体制ではなかなか受注できなくなっております。こちらから積極的に仕事を開拓していく姿勢が求められております。

また、各方面から適正就業の指摘があったものについては、就業形態を改善していくとともに「シルバー型労働者派遣事業」を積極的に取り入れていくことも必要であります。今後、品川での派遣事業の導入に向けて検討を急ぎ、新たな就業開拓に繋げていきたいと考えております。

次に、これもセンターの大きな課題でありました安全就業についてです。昨年度、ようやく27年度と比較して事故件数を半減することができました。これは安全管理委員会の委員の皆様が中心になって取り組みの強化を続けられたご努力の結果だと感謝申し上げますところですが、事故はちょっと気を緩めるとすぐに元に戻ってしまいます。今後とも、理事会、地区委員会などセンターが一丸となって、再度事故0を目指し安全就業の取り組みを進めてまいります。

品川のセンターが更なる発展をしていくために必要なことは、これからも地域社会のニーズを先取りし、会員の技術能力を高め、仕事を通じて地域社会に貢献していくことでもあります。このことがセンターの担うべき重要な使命でもあり、私は、より一層の努力を惜しまない所存です。

おわりに、この40周年を機に引き続き会員の皆様元気で生きいきとお仕事に励まれますようご祈念申し上げますとともに、関係機関の皆様のセンターに対する一層のご指導、ご支援をお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。

品川区長祝辞

品川区長 濱野 健



このたび、公益社団法人品川区シルバー人材センターが創立40周年を迎えられるにあたり、心からお喜び申し上げます。

品川区シルバー人材センターは、昭和52年4月、任意団体の品川区高齢者事業団として誕生し、その後、平成2年7月「社団法人品川区シルバー人材センター」と名称を改め、そして平成23年には東京都から認定を受け「公益社団法人品川区シルバー人材センター」となり、今日ここに40周年を迎えられました。この間、発足当初700人だった会員が2,000人を超え、業績も3,000万円から12億円を超えるなど、多大な成果をあげ、高齢者の就業と福祉の増進に貢献されてまいりました。

このように申し上げますと、全て順調に進んできたかのように聞こえてしまうかもしれませんが、ここに至るまではもちろん平坦な道ばかりではなかったものと拝察します。しかし、一步一步着実に歩みを進め、40年の歩みが根となり幹となり、今日の品川区シルバー人材センターを作り上げてきたのだと思います。歴代の役員の方々をはじめ、会員の皆様のご尽力に心から敬意を表します。

総務省の統計によりますと、我が国の65歳以上の方が総人口全体に占める割合は、平成28年9月15日時点で27.3%と過去最高になっています。また、就業者総数に占める65歳以上の割合は11.4%と、こちらも過去最高となりました。この数値は今後も増えていくことが見込まれております。つまり、これからは高齢者の方々が社会の主人公として活躍し、元気に働きながら人生を楽しんでいく、高齢者の方々が日本を支えていく時代であると思っております。

そうした中、品川区シルバー人材センターは能力と希望に応じた多様な働き方を提供して、高齢者の方の生きがいづくりに貢献しておられます。そして、幅広い職域の仕事を品川区シルバー人材セン

ターが受託することは、人材不足で悩む区内中小企業者の一助ともなるものであり、これは地域社会への貢献にも繋がる素晴らしい仕組みです。今後も、「高齢者のいきがい就業の拠点」として、高齢者の皆様に生きがいと喜びに溢れた人生を提供し続けられるような、そのうえで地域社会のサポーターとして活躍していただく役割を担っていただきたいと思います。強く願っております。

また、高齢化の波は日本に限らず先進国をはじめ世界に広がっており、今後世界各国の総人口に対する高齢化率は急速に上昇すると見込まれています。そのような中、日本のシルバー人材センターは、世界に類を見ない高齢者のための就業システムとして注目されています。ここ数年、海外の行政機関や報道機関から、全国シルバー人材センター事業協会をはじめ、連合本部や一部シルバー人材センターへの訪問・取材が入っていると伺っております。今後はより多くの興味が目がシルバー人材センターに向けられるでしょう。このような仕組みを作り上げてきたシルバー人材センターは日本が誇るべきものであり、これからも長寿国のフロントランナーとして牽引していただくことを期待しております。

品川区としましても、品川区シルバー人材センターの地域社会における重要性を深く認識し、引き続き支援に努めてまいります。

おわりに、今後の品川区シルバー人材センターの一層のご繁栄と会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

品川区議会議長祝辞

品川区議会議長 松澤 利行



このたび、公益社団法人品川区シルバー人材センターが創立40周年を迎えられましたこと、まことにおめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

品川区シルバー人材センターは昭和52年4月に品川区高齢者事業団として設立され、40年の長きにわたる尊い歴史を築いてまいりました。

この40年の歩みの中では様々なご苦労があったものと存じます。高齢者の就業を支え、福祉の増進に努められました会長をはじめ役員、会員の皆様、そして先達のご努力に敬意を表し、心より感謝申し上げます。

現在、2,000人を超える方が会員として登録され、年間延べ30万人余の方が多種多様な分野でご活躍し、地域社会の発展のためにご尽力されています。

品川区議会では、皆様のお力をお借りいたしまして区議会だよりを区内のすべてのご家庭に配付していただいております。「区議会だよりを見たよ」と地域の方から声をかけられることも多々あり、そのたびに21万部もの区議会だよりを迅速かつ的確にお配りしていただいていることに感謝するとともに、大変心強く感じている次第であります。

また、会員の皆様は長年培ってまいりました技能知識と経験から、品川区の事業を様々な面で支えております。中でもよくお見かけするのが学校等区有施設の管理業務をはじめ、喫煙マナーアップや子どもたちの登下校を見守る安全誘導などがありますが、この他にも数多くの活動を通して地域社会の発展に寄与しております。

こうした活動を日々続けられている品川区シルバー人材センターの創立40周年と時を同じくして、品川区も本年3月15日に区政70周年を迎えました。

今日の品川区の発展は地域の皆様の熱い思いに支えられたものであり、区民の代表である私も区議会は、区民生活の福祉の増進のためにさらに努力を重ねていかなければならないと重く受け止めております。今、私たちは区民により身近な区議会の実現と活力ある区政の発展をめざし「議会改革」を進めています。区議会だよりのリニューアルや議会報告会の開催など、従来の枠にとらわれない斬新の取り組みを進めており、引き続き努力を重ね、区民の付託に応えていく決意であります。

今後、急速に進展する高齢社会のなかで、品川区シルバー人材センターの役割はますます重要になってまいります。品川区におきましても30年後には高齢者が人口の3割を超えると予測しており、活力ある地域社会を形成するためには、高齢者の皆様が働く意欲を持って地域で活躍されることが不可欠であります。そのためには、品川区シルバー人材センターが核となって、高齢者の皆様の生活をささえていくことが強く求められてまいります。

この40周年を契機にさらに飛躍されますことをご祈念申し上げますとともに、品川区議会としましても、区と力を合わせまして、高齢者の皆様が喜びと生きがいを持って活躍できる地域社会を創造してまいります。

結びに、品川区シルバー人材センターのますますのご発展と会員の皆様の一層のご健勝を心からお祈り申し上げまして、創立40周年にあたりましてのお祝いの言葉とさせていただきます。このたびは、まことにおめでとうございます。

前会長祝辞

前会長 戸川 五郎



品川区シルバー人材センター設立40周年の記念誌作成にあたって、ご祝辞を申し上げます。

品川区シルバー人材センターは、昭和52年に高齢者事業団として発足して以来40年の節目を迎えています。

この40年という長い年月は、だれもが長い歴史のように感じる一方で、あっという間に過ぎ去ってしまった走馬灯のような一瞬だったという感想をお持ちの会員さんも多いのではないかと思います。

私は、この10年間、センターの理事として2年、副会長として2年、会長として6年間務めて参りました。

現在のセンターは、昭和52年の設立時には、会員704名でスタートしましたが、今では会員が2,438人と都内でもトップクラスのセンターに発展しております。特にこの十年間は、センターにとっても大きな出来事がございました。

その一つが、平成23年に公益社団法人として再スタートを切ったことであります。公益社団法人は法律に基づく主体者として積極的に仕事を受注し、請負等を通じて「自主・自立」の理念のもとに独自の活動を充実させていく組織であることが求められております。

また、事業の運営においては、独立した団体として資産関係についての責任所在とその明確な処理が必要とされることから、その一環として、第3次中期計画、第4次中期計画を策定して、計画的に各種事業を推進して運営状況の明確化を図ってまいりました。

その中で新たに始められた事業が、喫煙マナーアップ啓発事業であり出張着付け事業などがあります。その他、おさらい塾は区民等のご要望により3年ぶりに再開講致しました。

安全就業の取り組みについても、平成23年度

以降、一向に事故件数が減らないことから、平成24年度から就業現場への安全パトロールを開始し、平成27年度からは会員の体力の維持対策の一つとして「つま先立ち体操」の奨励や事故の当事者を対象に再発防止講習会などを実施し、事故件数の減に繋げてまいりました。

会員さん向けには、安全就業ベストの全員配布、会員同士が交流する拠点の整備、初心者向けパソコン教室、フランス語講座などバラエティに富んだ事業を実施し、シルバー人材センターが仕事のあっせんだけでなく、生きがいづくりや趣味のコーナーなど魅力にあふれた活動を実践している団体であることを内外に証明してまいりました。さらに一層のPRをしていく必要があると思っております。

一方で悲しい出来事もございました。長年、センターのために尽力をつくされた前々会長の前田いな様、前会長の中大路満喜子様がこの10年の間に亡くなられ、つい先ごろは理事会の中心として活躍して頂いた本多美津子副会長がお亡くなりになったことです。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

時の経過とともに、これからのセンターを取り巻く状況も大きく変化をしていくとは思いますが、高齢者が長年培ってきた知識や経験、技術を活かして社会に貢献していくことは、大変有意義で貴重なものであることに変わりはないと思っています。

今後とも、会員の皆様のお知恵と事務局の皆様の支えがこれまで以上に力を発揮され、センターが増々、充実発展されますようお祈り申し上げますとともに、関係機関のセンターに対する一層のご支援をお願いいたしまして、祝辞とさせていただきます。有難うございました。

前事務局長祝辞

前事務局長 長田 正



品川区シルバー人材センター創立40周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

シルバーセンターにご縁あって、平成24度から3年事務局長を拝命いたしました。着任時まず感じたことは、会員がお若く元気に生き生きと仕事に取り組んでいることと、地域社会に対して会員が仕事を通じて貢献できることへの喜びと誇りをお持ちになっていることでした。

品川区シルバー人材センターは、公共的な仕事のみならず民間からの受注を中心に実績を確保するなど、全国的にもトップクラスの実績を有していることに感心したものでした。

このような優秀なセンターを運営するについて、まず、基本としたことは、会員の増強と新規事業の開拓に力点を置いて取り組むことでした。内部的には、小規模職場のため職員同士の親睦と健康管理に取り組むことを基本に置いて日々の業務に取り組むことといたしました。幸いにもこの運営方法に、理事会及び会員各位、職員もご賛同いただき、在任中は極めて円滑な施設運営を図ることができたような気がします。

一方マイナス要因といたしましては、労働局の適正就労の指導による大手スーパーからの撤退と会員の減少傾向が表れ始めたことにより仕事はあるものの対応する会員がいないというようなことも発生し始めました。こうしたことへの対応には、魅力ある新規の仕事の開拓と、新規会員の増強が喫緊の課題となりました。また、就業中や仕事場への行き帰りに起きる事故も多く発生し、重大な課題になっていました。

新規事業開拓や会員増強は、なかなか思うに任せず清掃を中心とした仕事が多くなる傾向でしたが、継続的に取り組みを強化したことにより少しずつですが成果を上げてきました。

また会員の安全就業の取り組みも「安全は何よ

りも優先される」とのスローガンに基づき、理事会や安全管理委員会の熱心な取り組みにも関わらず、なかなか減少しない現実がありました。安全管理は永遠の課題であり、安全月間のみならず、年間を通じた取り組み強化をすることといたしました。

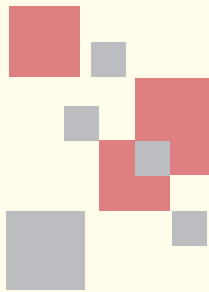
在任中は、日々このような課題対応に取り組んだ3年間でしたが、本当に楽しく職務を果たすことができたことは、ひとえに会長はじめ会員各位・職員の協力があつたもので、今、思い起こしても感謝しかありません。本当にありがとうございました。

シルバーの一番の思い出は、年に一度の共助会の親睦旅行と各地区のレクリエーションに参加させていただいたことです。バス3台、135人の旅行は、会員とふれ合うことのできる機会でもあり、多くの会員方とお話をさせていただき、私も十分に楽しませていただきました。また各地区のレクリエーションにもお誘いいただき本当に楽しませていただきました。

年金制度の充実や就労に対する意識変化の中で、今後のシルバー運営はより困難が予測されますが、6月の総会で新たな会長・理事など新役員が決まったとお聞きしています。今後は、新役員を中心に、歴史と実績ある品川区シルバー人材センターが一層の発展を遂げられるよう祈念しております。

シルバー退職後、私は横須賀という地の利を生かして、現在は、ヨットと釣り、ゴルフに残り少ない第二の青春を謳歌しています。髪の毛はますます白くなっていますが、肌は日に焼けて黒くなり海の男?になっています。機会を作って遊びにも行きたいと思いますので、その際は暖かく歓迎していただければ望外の喜びであります。

3年間本当にお世話になりました。



設立40周年 記念式典



濱野健品川区長のご祝辞



松澤利行区議会議長のご祝辞



設立40周年記念式典

来賓紹介 (順不同・敬称略)	
役職名	氏名
品川区長	濱野 健
品川区議会議長	松澤 利行
区民委員会委員長	本多 健信
区民委員会副委員長	塚本 よしひろ
区民委員会委員	渡辺 裕一
区民委員会委員	中塚 亮
区民委員会委員	あべ 祐美子
区民委員会委員	木村 けんご
区民委員会委員	藤原 正則
区民委員会委員	田中 さやか
品川区地域振興部長	堀越 明
品川区商業・ものづくり課長	山崎 修二



ご来賓の方々



役員の方々

式典当日の様子



開場前 役員の打ち合わせ



会場の様子



司会者小日向会員



受付は来場者の列がつぎます



式典次第

1部

- | | | |
|---|--------|----------|
| 1 | 会長挨拶 | 戸川 会長 |
| 2 | 品川区長挨拶 | 濱野 区長 |
| 3 | 来賓紹介 | |
| 4 | 祝 辞 | 松澤 区議会議員 |

2部

- | | | |
|---|------|-------------------------|
| 1 | 記念講演 | 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 石橋智昭氏 |
| 2 | 寄席 | 落語 桂 宮治 |
| | | 奇術 ヒロミ |
| | | 落語 三遊亭遊雀 |



三遊亭遊雀師匠の落語



桂宮治師匠の落語



ヒロミさんのマジック

記念講演

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 研究部長 石橋 智昭



「生きがい就業の介護予防効果について」

私が所属しているダイヤ高齢社会研究財団の「ダイヤ」とは宝石のダイヤモンドを意味し、三菱グループ29社によって設立された民間の研究機関です。私は、今日の午前中まで名古屋の国際会議場で開催中の「日本老年学会総会」という高齢者を専門とする学者が一堂に会する学会に参加していました。学会発表のテーマには、今回ご紹介する「介護予防」に関するものも多く、その関心の高さを実感してここに立っています。

さて、本日の講演では、私たちの研究チームと全国35カ所のシルバー人材センターによる共同研究の成果からいくつかをご紹介したいと思います。

まず、共同研究が設定したゴールは、「シルバーに入会すると健康になれるよ」、「健康でいたいならシルバーに入ろう」という合言葉が自他ともに地域に広がることです。これまで、シルバー人材センターの役割に関しては「労働的な側面」と「福祉的な側面」から整理されることが一般的でした。現在、あるいは今後さらに重要視されると思われるのが、この両方が交わった「健康的な側面」であり、後期高齢者においても「生きがい就業」が「介護予防」につながるという効果を目に見える形で証明したいということです。

シルバーの会員の健康度が高いという報告は以前にもあります。平成18年の全国シルバー人材センター事業協会の調査ではシルバー会員と一般高齢者を比較して、シルバー会員は医療費がより少ないとの結果を出しています。私たちの研究は、医療費(つまり病気になるかどうか)の手前の段階にターゲットを置いて、「フレイル」に注目することにしました。

“フレイル”とは、まだ自立した健康生活を過ごしているが要支援・要介護状態の予備軍(要支

援・要介護の一步手前)であり、かつ健康寿命の終わりに近づきつつある状態とされています。健康寿命とは、人の手を借りずに自分で身の回りのことがこなせる状態でいられるまでの寿命を指します。この健康寿命と生物学的な寿命の差を縮める、つまり寝たきり期間を短くするための挑戦が世界中で取り組まれています。さて、健康寿命の終わりに近づきつつある“フレイル”の把握方法ですが、例えば握力と外出回数の測定方法があります。握力は全身の体力を示し、外出回数は活動の程度を表すとともにその後の体力の増減を予測します。週1回程度の外出では虚弱性が進むと言われています。しかし、こうした器具を用いた握力測定等を実施するのは困難なので、私たちは毎年同じ時期に年1回のアンケート調査を全会員に実施して、1年間の変化を追跡することに取り組んでいます。

アンケートの項目は、自身の健康状態について問う主観的健康観(老年学ではとても有名な指標であり、寿命とも関係が深い)や外出の手段や社会参加の頻度など健康状態に関する質問と共助会やボランティアへの参加を含むシルバーでの活動状況、シルバーの満足度に関する質問になっています。例えば、主観的健康観は全国統計もあり、全国とシルバーの比較することができます。また、毎年行うことで会員個人の昨年との比較もできます。このような簡易的なアンケートから健康と仕事についての関係性を分析して、健康を維持するのにシルバーは役立っているのか、あるいは、生きがいを感じるのにシルバーは役立っているのかを集計します。仕事の量と健康度の分析結果はレポートにまとめ、各センターに報告し、自分たちのシルバーが全国と比較してどのぐらいの位置か、会員さんにその結果が伝わるようにしています。

それでは、研究成果からいくつか紹介しましょう。まず1つ目は、会員自身がシルバーに入会する理由として「健康維持」をどのくらい重視しているのかです。アンケートでは、入会理由として8項目を用意しましたが、一番多く選択されたは「健康を維持できる」です。次いで「生きがいを得られる」が続き、「家計のやりくりが楽になる」は1割弱でした。このことから、シルバーは就業を目的とする組織であるものの、会員自身はそこでの活動を健康増進の貴重な機会と捉えていることが再確認できました。

成果の2つ目は、もう一步踏み込んだ「実際にシルバーで活動してみた満足度」です。アンケートの結果、「健康維持」の効果を実感している会員は85%にのぼり、次に「いきがいを得られる」は75%の方が、「友人と交流ができる」も62%が満足と回答しました。これらは、単に体を動かす機会を得るだけでなく、生きがいや友人など“外出”するための意欲や目的が得られるという点で介護予防が重視するポイントです。すなわち、シルバーの活動を通じて健康維持とともに、生きがいや友人との交流が豊かになるという実感を得られることで活動が継続するという好循環を実現しており、このサイクルこそは介護予防が目指す1つの到達点と言えるでしょう。

成果の3つ目は、こうした健康維持及び生きがいに対する満足度とシルバーでの仕事の量との関係の分析です。結果を見ると、就業量が多いほど、健康維持や生きがいに対する満足度が高い傾向が見られましたが、就業量の少ない人においても80%程度の方は満足していると回答していました。したがって、さほど頻繁に活動する必要はなく、個々の能力や体力に応じた適度な量の仕事を行なうことが最適なのだと結論しました。

成果の4つ目は、厚生労働省が要介護予備軍を抽出するために作成した25項目からなる『基本チェックリスト』の項目を用いた分析結果です。こ

の『基本チェックリスト』は一昨年まで、住民基本健診を受けたすべての65歳以上の方が受けていたものですが、制度変更により現在は健診時には実施されなくなりました。そのかわりに、新総合事業としてシルバー人材センターを含む住民等の多様な主体がサービスを実施する「介護予防・生活支援サービス」の利用者を選定するために利用されています。地域包括支援センターの窓口で『基本チェックリスト』を受け、「介護予防・生活支援サービス」の利用者に該当すれば、訪問介護（ホームヘルプ）や通所介護（デイサービス）の利用が可能になります。「介護予防・生活支援サービス」の利用者は、従来の「要支援1・2」の方を含む形になっていますが、この範囲に属する高齢者を冒頭で紹介した“フレイル”と幅広く捉えることもできます。この『基本チェックリスト』は全体的な虚弱、運動能力の状態、体重の低下等の栄養状態、歯の本数や飲み込み等の口腔機能の状態、認知機能の低下、口数が減る、ふさぎ込む等のうつ状態をチェックするものです（P13図参照）。これらに該当した人には、なるべく早く働きかけ、フレイルの状態がさらに進まないようにしたり、改善に向けたりするためのサービスを提供します。『基本チェックリスト』の回答結果を全国統計と比較すると、ほとんどの項目でシルバー会員の該当率が低く、その健康度の高さが確認できます。しかし、該当率が0%でないということは、会員の中に“フレイル”に近い人が少なからずいらっしゃるということです。それを次に紹介します。

成果の5つ目は、シルバーの会員のなかに「介護予防・生活支援サービス」の利用者に該当するフレイル状態の会員がどの程度いるかについてです。その結果、65～69歳では31%、70～74歳では34%、75～79歳では39%、80歳以上では46%、全体を通すと35%の会員さんたちがフレイルに該当しました。実は、この分析の目的はフレイルの会員の数を知るのではなく、フレイルに

石橋智昭先生のプロフィール

石橋先生は現在、慶應義塾大学及び東邦大学の非常勤講師の他、全国シルバー人材センター事業協会の安全就業・優良シルバー人材センター選定委員会の委員も兼任しており、シルバー人材センターに対し、造詣が深い先生です。

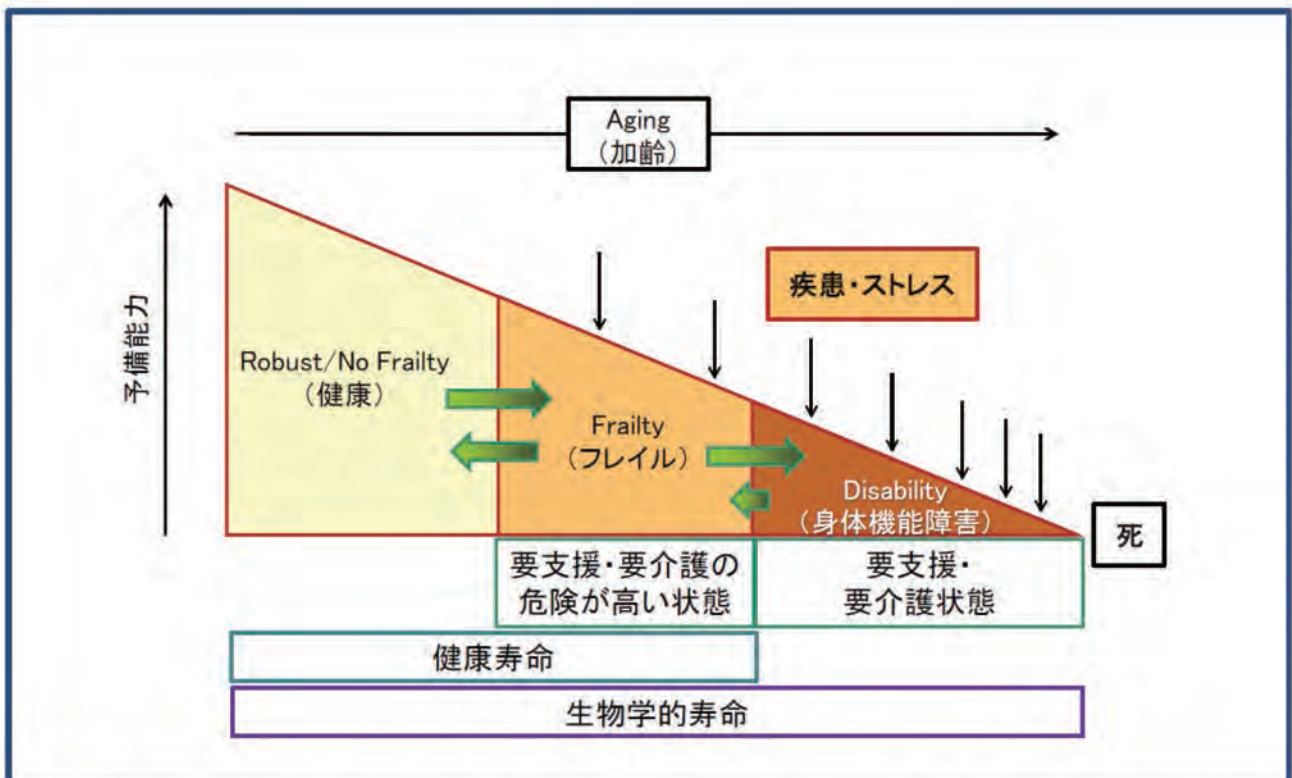
該当する会員さんでも「会費を払ってお仕事をしている」という事実を明らかにすることです。分析の結果、フレイル状態の会員は健康な（フレイルでない）会員に比べて就業量は少ないものの、月平均で約26,000円の配分金を得ていました。また、追跡調査では前年度にフレイルだった会員が改善した（フレイルの基準から外れた）例が17%見られました。

前述したように、『基本チェックリスト』でフレイルの基準に該当した高齢者は、公費（介護保険関連費用）を使って様々な予防サービスを利用します。しかし、同様の状態であってもシルバー会員の場合は、自らが働くこと、つまり「受け手ではなく支え手側に立つ」ことで介護予防に資する効果を

生んでいます。こうした“生きがい就業”を介護予防プログラムとして捉えれば、その経済効果は非常に高く、何よりも参加する高齢者の満足度や自尊感情の面でも大変優れていると考えられます。

以上、本日の講演では生きがい就業の介護予防効果について、いくつか紹介させて頂きました。こうした“見える化”への取り組みは、会員の賛同を得て地道に継続することが重要で、10年目を迎えた町田市シルバー人材センターでは会報や研修会等で会員と研究成果を共有しながら継続しています。今回の講演で会員の皆様の声が高まり、私たちの共同研究への参加が実現すれば幸いです。本日はありがとうございました。

フレイルの位置（出典：国立長寿医療センター『健康長寿教室パンフレット』）



葛谷雅文：老年医学におけるSarcopenia&Frailtyの重要性. 日本老年医学会雑誌 46（4）：279-285, 2009 より改変

「基本チェックリスト」による健康度の見える化

「基本チェックリスト」は、要支援・要介護状態となる可能性の高い予備軍を抽出するため、厚生労働省が作成した計 25 問の調査票です。

全国統計と会員の結果を比較すると、ほとんどの項目でセンター会員の方が「していない」「出来なくなった」の該当率が低く、特に、日常生活の自立性を表す「手段的自立」や「運動器」で優れた成績となっています。

基本チェックリストの項目と該当率※（平成22年厚労省7との比較）

	No.	質問項目	全国統計	シルバー
手段的自立	1	バスや電車で1人で外出していますか	24.5	0.9
	2	日用品の買い物をしていますか	18.0	0.5
	3	預貯金の出し入れをしていますか	22.1	1.7
	4	友人の家を訪ねていますか	29.9	28.2
	5	家族や友人の相談にのっていますか	17.3	15.1
運動器	6	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	43.7	2.8
	7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	23.8	1.2
	8	15分位続けて歩いていますか	21.2	1.3
	9	この1年間に転んだことがありますか	23.3	14.7
	10	転倒に対する不安は大きいですか	45.6	25.4
栄養	11	6ヵ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	14.6	9.3
	12	体重 (kg) ÷ (身長 (m) × 身長 (m)) = BMI < 18.5	7.0	5.6
口腔	13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	37.2	16.3
	14	お茶や汁物等でむせることがありますか	21.2	14.8
	15	口の渇きが気になりますか	25.3	17.0
外出	16	週に1回以上は外出していますか	10.4	1.8
	17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	31.7	13.2
認知機能	18	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	21.9	7.9
	19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	9.8	0.4
	20	今日が何月何日かわからない時がありますか	26.2	12.9
うつリスク	21	(ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	16.6	10.5
	22	(ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	13.1	8.0
	23	(ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	26.8	25.4
	24	(ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	20.2	11.1
	25	(ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	28.7	18.4

●厚生労働省：平成 22 年度日常生活圏域ニーズ調査モデル事業. 2010

※「していない」「出来なくなった」など、健康の悪化につながる回答をした人の割合

地区委員会

委員長紹介

地区名	委員長
品川北地区	野口サチ子
品川南地区	横山 英男
大崎地区	新山 春一
大井東地区	板垣 幸雄
八潮地区	千葉 陽一

地区名	委員長
大井地区	中畑 健一
大井西地区	古賀 忠壹
荏原地区	朝岡 忠雄
中延地区	渡辺 友之
戸越地区	稲見 治男



後列左より：横山(品川南)、新山(大崎)、稲見(戸越)、朝岡(荏原)、古賀(大井西)
前列左より：板垣(大井東)、中畑(大井)、渡辺(中延)、野口(品川北)、千葉(八潮)

地区記念行事

地区名	実施月日	実施内容	場所(行先)
品川北地区	7月 9日	祝賀会(品川警察の講演)	グランドプリンスホテル高輪
品川南地区	8月 20日	祝賀会(フルート、ピアノ演奏)	品川第一地域センター
大崎地区	7月 30日	祝賀会(おもてなし会話の講演)	大崎第一地域センター
大井東地区	4月 9日	日帰りレク・	東京ドイツ村・ 東大井区民集会所
	8月 27日	祝賀会(大井の歴史の講演)	
八潮地区	7月 23日	祝賀会(成年後見制度の講演・健康体操)	八潮地域センター集会室
大井地区	7月 30日	祝賀会(カラオケ・マジックショー)	大井第三地域センター
大井西地区	7月 29日	祝賀会(成年後見制度の講演)	大井第三地域センター
荏原地区	4月 15日	日帰りレク(荏原・中延・大崎地区バス旅行)	小田原フラワーガーデン及び小田原周遊
中延地区	7月 17日	祝賀会(中延地区歴史の講演)	荏原第二地域センター
戸越地区	7月 25日	祝賀会(戸越の歴史の講演・ハンドベル演奏)	中小企業センター

品川北地区

梅雨の最中とは思えないほどの晴天に恵まれ、品川区シルバー人材センター品川北地区の夏期全大会及び創立40周年を祝う会を「グランドプリンスホテル高輪」にて開催いたしました。来賓に和泉副会長・本部から鈴木次長をお迎えしました。一部の夏期全大会では、金井安全管理委員から就業中の事故の内容や今後の対策についての話があり、鈴木次長からはシルバー人材センターの現状、特に会員が減少している為、対策として会員からの入会の声かけに協力してほしい旨の要請がありました。講演では、品川警察交通課 鈴木係長から「近年多発する高齢者の交通事故と対策」についての話の中で、高齢者による運転事故を防ぐために免許証の返納も考えてほしい等のお話

がありました。二部は、乾杯に始まり食事を堪能し「大井ハーモニーメイツ」のハーモニカ演奏に耳を傾けたり、全員で合唱したり、語り合ったりと親睦を深めたひと時でした。皆様身体に気をつけて50周年にも参加できるよう頑張りましょう。

(野口 サチ子・記)



「大井ハーモニーメイツ」のハーモニカ演奏



品川北地区の会員の皆さん

品川南地区

地区全大会・設立40周年記念を平成29年8月20日(日)品川第一地域センター第1集会室・第2集会室を会場に11時より開催しました。

当日は、全役員9時に集合し、40周年記念に見合うべく会場設営に当たりました。第1部は、関副委員長の司会で議事を進行し、横山委員長の挨拶のあと、来賓としてお迎えした久保田事務局長、鈴木次長それぞれからご挨拶を頂きました。次に品川警察署生活安全課坪松巡查部長より「防犯について(主に振り込み詐欺)」講義があり、還付金詐欺や公共機関をかたる詐欺等の手口についてDVDを見ながら被害にあわないようお互いに注意しあいました。引き続いて清藤安全管理委員より「日常の安全について」説明をうけました。特に慣れからくる事故に注意し、安全は細かい注意点の繰り返しが必要である旨の話がありました。その後、自転車転倒事故体験者の事故事例を当事者

本人から話していただき皆さんの安全意識向上に効果があったのではないかと感じました。

第二部は、40周年記念として会場を第1集会室に移動し、清藤委員の司会進行で始まり、横山委員長の挨拶のあと各テーブルにパーティー料理が並ぶ中、横山委員の乾杯で食事、懇談に入りました。新年会以来の再会の会員もおり、アルコールも入り、笑いや仕事の話で和やかな雰囲気の中、ピアノやフルート演奏また、その伴奏に合わせ「ふるさと」等の曲を皆で合唱し会場も熱気をおびてきました。次にカラオケが始まり、自慢ののどや、酔いしれて歌う人など様々な表情でカラオケの楽しさを堪能し、最後にビンゴゲームを楽しみました。ビンゴの景品は今回、グレードアップし全員分はありませんでしたが、その分盛り上がりました。

宴席もつつがなく進み、閉会のことばが為田副委員長からあり、皆様のご協力、千鳥足の方も見当たらず帰りにお土産を持参して、それぞれ楽しい1日を過ごされ家路につきました。

(関 禎次・記)



フルート演奏



会員による電子ピアノ演奏



フルートやピアノに合わせて大合唱



会員同士の懇談

大崎地区

品川区シルバー人材センター設立40周年記念行事は、例年開催してきた夏の全大会と兼ねて、平成29年7月30日 会員45名と岩澤会長、和田荏原支部所長をお迎えして大崎第一地域センターにて、11時50分から開催しました。節目の年なので、参加者全員で記念写真を撮り、その後第一部の研修に入りました。

東京オリンピックの開催まで3年となり、外国人観光客が日増しに多くなり羽田空港を利用するには品川の駅その他で声をかけられることが多くなると推察されるため、今般品川北地区の会員で海外勤務も長く、英語、フランス語の通訳の資格を持ち、現役時代は職員に語学研修等の経験もある、金地益良氏に“おもてなし”会話についてお願いしました。4ページのレジメと、エピソードを交えながら、英語とフランス語の簡単会話をみなさんと声を出しながら復唱、最後にオーシャンゼリゼを日本語で歌い、あっという間の30分でした。

第二部は、委員長挨拶、岩澤会長挨拶、川名副委員長の乾杯により祝宴にはいりました。会員同志半年ぶりの再会とあって、語り、笑い、飲みかわしカラオケ等で盛り上がったところで、40周年記念大抽選会に入りました。商品は7人の女性役員にそれぞれ購入してもらい、全員もれなく当たり、最後に委員長提供の特別賞を抽選し、大変な盛り上がりでした。

閉会に当たり、門馬理事にご挨拶をいただき、本会は概ね、成功裡に終えることができました。

(新山 春一・記)



地区委員の方々



“おもてなし会話”について講演する金地会員

大崎地区の会員の皆さん

地区記念行事

大井東地区

センター設立40周年記念として、4月9日(日)東京ドイツ村と濃溝の滝への日帰りバス旅行そして夏期全体会を8月27日(日)実施いたしました。

東京ドイツ村は2001年開場で、東京ドームの19倍の広さに色々な花園・施設を配置しており、見ごたえ最高でした。またドイツムードのソーセージ、バームクーヘン、ドイツビールが大変人気でした。濃溝の滝は洞窟を通しての光の明暗差が美しさを際立たせていて、これぞ秘境です。昼食は漁師料理「かなや」、絶景オーシャンビューで、アサリご飯と漁港直送の新鮮な魚を使った料理で、皆さんおいしいおいしいと言いながら食べていました。

夏期全体会は、大井の歴史をふりかえると題

して、品川歴史館専門委員の柘植信行様にプロジェクターを使って、わかりやすく説明をしていただきました。

大井の懐かしい風景では、立会川を中心に散在する屋敷、神社仏閣、鮫洲近郊の大井浦は海苔の他漁場として賑わっていたところ。鎌倉時代の大井は現在より広く多摩川から目黒川を越えて大井氏の領域、古墳も沢山あったとの説明でした。江戸時代の桜の名所は御殿山以外に今も現存する来福寺など各寺の境内で咲く桜が名所になっていた・・・と説明して頂きました。皆さんが住んでいる身近なところの大井の歴史に聞き入っていました。

(板垣 幸雄・記)



大井東地区会員の皆さん



“大井の歴史をふりかえる”元品川歴史館副館長柘植様の講演

地区記念行事

八潮地区

7月23日(日)11時30分より八潮地域センター2階レクホールにて、本部から久保田事務局長、東大井支所から相ヶ瀬所長を迎えて会員42名出席のもと、品川区シルバー人材センター設立40周年記念八潮地区夏期全大会が開催されました。来賓挨拶の後、定刻通りセンター業務や安全就業に関する話があり八潮地区恒例の高橋委員指導による健康体操で身体をほぐし、最後に地区委員長から事業報告と出席者紹介が行われて議事を終了。

引続いて記念講演として一般社団法人しんきん成年後見サポートの平森均事務局長と服部明相談担当主任による財産管理と成年後見事業についての講話が行われました。

その後小休憩後、飲食付き懇談会が行われて最後に、佐藤参与よりシルバー人材センターは40周年だが八潮地区は来年20周年を迎える、人間なら成人式で一番発展する時期だから大いに頑張ろうとの挨拶あり盛況裡に閉会しました

(千葉 陽一・記)



八潮地区活動状況の報告 / 千葉委員長



八潮地区 / 恒例の健康体操



シルバー人材の今後 / 久保田事務局長

大井地区

平成29年7月30日(日)午前11時から、大井第三区民集会所第1集会室に於いて、本部から和泉副会長・北山主事を来賓としてお迎えし開催されました。

セレモニーとして和泉副会長・北山主事・柳下理事からの挨拶のあと、今回のメインである講演「高齢者の安全と事故防止について」大井警察署の係官から講演をいただきました。

その一は、交通事故防止について、交通ルールを守ることと無理をしないの二点を中心に説明、

その二は、オレオレ詐欺被害防止について非常に詳しく説明して下さいました。

次に、当地区の遠藤安全管理委員による安全報告を受けセレモニーは終了。

乾杯のあと懇親会に入り、マジックショー・カラオケ等で大いに盛り上がり、楽しいひとときを過ごしました。

以上記念全体会は概ね成功裡に終了いたしました。

(柳下 恭治・記)



大井地区会員の皆さん



マジシャンによるマジックショー



友達同士での食事を堪能

地区記念行事 大井西地区

大井西地区は、7月29日（土）に夏期全大会を大井第三地域センター（西大井4丁目）で開き、センター本部からの来賓2人を含め30人が集まりました。地区委員会は、この集まりをセンター設立40周年記念事業と位置づけ、研修会とカラオケなどな



夏期全体会研修 / 講師を務めた古賀委員長(中央)

んでも有りの芸能大会を組み合わせた2部構成のプログラムにしました。

中俣勝太郎主任の指導で全員がつま先立ち体操をし、和泉秀雄副会長らが挨拶。NPO法人「市民後見人の会」の役員も務める古賀忠壹地区委員長を講師に「認知症と成年後見」をテーマにした研修をしました。1部はここで終了、用意したお弁当、お酒、お菓子などを食べながら懇談に入りました。

地区委員の事前の提案で、今回から座席の配置を全員が前を向いた「教室」型から対面形式の「口の字」型に変えたためか、話が弾みました。2部の芸能大会では、約半数の人がマイクを握り、歌謡曲、詩吟、民謡などで盛り上がりました。

(古賀 忠壹・記)



大井西地区会員の皆さん

荏原地区

今年創立40周年、大きな節目の年に、ふさわしい計画立案をし、3地区合同で平成29年4月15日(土)に小田原フラワーガーデンと小田原周遊を開催することに決定。

コース見学のポイント1は、フラワーガーデンの平成7年4月に出来たトロピカルドーム(大温室)で、一年中四季折々の花や緑が楽しめる。館内の



神秘の宝華「ヒスイカズラ」

目玉はなんとと言ってもヒスイカズラ、正しくは宝石ヒスイと言いその美しさを鑑賞。

ポイント2は、昼食。和・洋・中バイキング形式で場所のスペース等の問題もあり、シルバー会員ではせわしく、ゆとりの配慮に欠けていたと考え反省。

ポイント3は、海老名アサヒビール工場。見学後、(各種)試飲を楽しみながら会員同士和気あいあいのムードで十分に親睦が図れたと思います。

小田原周辺には、まだまだ見るところが小田原城・一夜城・箱根等々有り次回に余韻を残し帰ります。当日は天候にも恵まれ合計92名(バス2台)何事もなかったことに感謝。参加をされた会員の皆さま、地区委員の皆様、大変ご苦労様でした。

(阿部 昭男・記)



3地区合同(荏原・中延・大崎)日帰りレク/荏原地区会員の皆さん

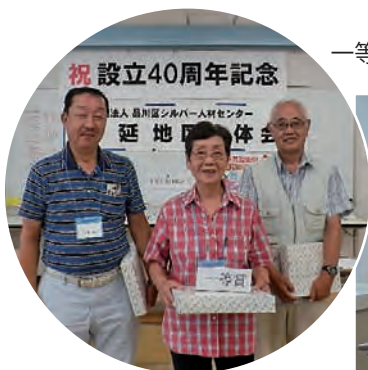
地区記念行事 中延地区

中延地区では、29年夏期全大会を品川区シルバー人材センター設立40周年記念事業の一環として、「品川郷土の会」坂本道夫会長をお招きし、今我々が住んでいる中延・旗の台の今昔について、会員56名が参加し講演を聞きました。56名はやや少ない感がありますが、ここ1年以内に入会し、始めて参加された会員さんも多く、また案内状の講演内容に魅されたか、いつもと違う顔ぶれも多く見受けられ、大変うれしく思いました。第二部ではビールで乾杯、昼食懇談のあと、記念として特別に行った一等から五等まで豪華賞品が当たる「お楽しみ抽選会」(一等は大豪邸の応接間に相応し

い掛け時計)でも大いに盛り上がり、常連の会員さんを含め「仲間の輪」が大きく広がったと思います。帰りには記念のお土産をもらい、皆様満足して帰途につきました。

講演は、中延・旗の台がある現在の品川区「荏原地区」は江戸東京の近郊農村地帯として農作物を市街地に供給していたが、大正10年頃から私鉄網「東急大井町線・池上線・目蒲線」などが次々に開通し、大正10年に1万人であった人口が、大正15年には8万4千人と爆発的に増加し急激的な住宅地化が進んだなど、興味のあるお話でした。

(渡辺 友之・記)



一等、二等、三等を受賞した会員



40周年記念のお土産



中延地区会員の皆さん



地区記念行事

戸越地区

戸越地区は戸越1丁目～6丁目、豊町1丁目～6丁目、二葉1丁目～4丁目から成っており、会員数341名、地区委員16名で活動しております。地区のモットーは「やる気、元気、思いやり」で地域の行事に積極的に参加し、近隣住民のために活動しています。

今年の地区活動は、春のバス旅行で毎年恒例の「花めぐり」に行き、年2回の全大会では「適正就業について」の勉強会や会員相互の親睦を深める会で会員の隠し芸「楽器演奏、手品、民謡等」を楽しみました。

戸越地区は活力のある地区です。今後のより一

層の発展に地区会員一同、元気に活動していきます。

(稲見 治男・記)



足利フラワーパークにて



ハンドベルの演奏



戸越地区会員の皆さん

理事会

現役員紹介

役職名	氏名	役職名	氏名
会 長	岩澤 政善	理 事	柳下 恭治
副 会 長	和泉 秀雄	理 事	阿部 昭男
常務理事	久保田孝之	理 事	野田 晶彌
理 事	戸川 五郎	理 事	中井 武美
理 事	門馬 友子	理 事	堀越 明
理 事	伊藤 一三	監 事	田島 照三
		監 事	渡辺 優



阿部理事 堀越理事



後列左より：伊藤理事、田島監事、渡辺監事
 右より：野田理事、中井理事、戸川理事
 前列左より：門馬理事、和泉副会長、岩澤会長
 右より：柳下理事、久保田常務理事



40周年記念品
 《電波時計》

事務局職員紹介

所 属	職	氏 名	所 属	職	氏 名
本部事務局	事 務 局 長	久保田孝之	東大井支所	会 員	松丸 幸子
	次 長	鈴木 祥司		会 員	飯塚 享雄
	次 長	和田裕美子		会 員	山崎 憲治
	次 長	荒木 幹郎		会 員	本間 清次
	主 任	中俣勝太郎	荇原支部	所 長	相ヶ瀬加代子
	就業開拓専門員	春日 文雄		主 任	横岡 秀樹
	嘱 託 職 員	松本 民江		主 事	白井 祐子
	会 員	町田 洋子		主 事	志村 直朗
東大井支所	所 長	山崎 高裕	会 員	押山美佐子	
	次 長	菅井 竜也	会 員	村山 義次	
	主 事	三樹 秀和	会 員	秋山 栄一	
	主 事	北山 尚宣	会 員	中村 修	
	会 員	戸松 重夫	ゆたか支所	会 員	池田 光広
	会 員	平野 武男		会 員	沖永 澄江
	会 員	麥谷扶美子			

本部事務局



後列左より：春日、松本、町田、中俣
前列左より：和田、鈴木、久保田、荒木

東大井支所



後列左より：松丸、麥谷、平野、飯塚、戸松、山崎、本間
前列左より：北山、菅井、山崎、三樹

荇原支部



後列左より：押山、秋山、村山、中村
前列左より：白井、相ヶ瀬、横岡、志村

事務所紹介

本部事務局



荏原支部



ゆたか支所



東大井支所



本部：会員交流コーナー



品川区シルバー人材センターのあゆみ

● 設立からの10年(抜粋) 《昭和50年度～61年度》

年・月	センターの主なできごと
昭和52. 1	品川区が、品川区高齢者事業団の設立を決定(昭和52年4月末を設立予定時期とする)
昭和52. 2	第1回設立準備会開催
昭和52. 4	事務局をゆたか敬老会館(豊町4-1-12)内に開設
昭和52. 4	品川区高齢者事業団設立総会を品川公会堂で開催(会員数697名)
昭和52. 6	事務局を新装となったゆたか敬老会館(豊町3-2-15)内に移転
昭和53. 3	品川区高齢者事業団だより創刊号を発行
昭和55. 10	(社)シルバー人材センター品川区高齢者事業団設立総会を荏原文化センターにおいて開催
昭和55. 12	(社)シルバー人材センター品川区高齢者事業団としてスタート
昭和56. 4	事務局を東大井工場アパート(東大井1-4-14)2階に移転
昭和58. 8	西五反田作業所開設
昭和60. 4	共助会発足

● 設立からの11年～20年(抜粋) 《昭和62年度～平成8年度》

年・月	センターの主なできごと
昭和62. 9	設立10周年記念式典を荏原文化センターにおいて開催
平成2. 7	名称を「社団法人品川区シルバー人材センター」に変更する
平成4. 7	荏原保育園(荏原2-16-18)3階に荏原分室を開設
平成7. 6	荏原支所・いきいきプラザを開設
平成7. 7	大井作業所(大井3-15-7)を開設
平成8. 4	荏原支所が国庫補助対象として認められ、名称を荏原支部とする
平成8. 10	財団法人東京都高齢者事業振興財団がシルバー人材センター連合の指定を受け、品川区シルバー人材センターは会員として加入する

● 設立からの21年～30年(抜粋) 《平成9年度～平成18年度》

年・月	センターの主なできごと
平成9. 4	役員改選により、前田いな理事が引き続き会長に就任
平成9. 9	設立20周年記念式典をきゅりあん大ホールにて開催
平成10. 5	配分金振込先を民間金融機関から郵便局へ変更
平成11. 1	就業機会開拓専門員雇用発令(4名)
平成11. 4	情報処理システムの新機種「エイジレス80第四世代」を導入
平成11. 8	事務局を品川第一出張所ビル(北品川3-11-16)2階に移転。旧事務局を東大井分室とする
平成14. 4	サボしながわオープン
平成15. 4	新常務理事・事務局長として指田勝男理事が就任
平成16. 8	安全就業対策の一環として、自転車総合保険の加入斡旋制度を開始
平成16. 11	全会員へ安全就業用ブルゾンの貸与を実施
平成17. 1	事務局職員の昇任発令 総括次長昇任・春日文雄(次長) 次長昇任・小林陽一(主任)
平成17. 4	役員改選により、中大路満喜子理事が会長に就任
平成17. 9	事業代金のコンビニエンスストアによる収納サービスを開始
平成17. 10	お客様仕事満足調査の実施
平成18. 7	情報処理システム新機種「エイジレス80アドバンス」を導入
平成18. 10	高橋久二名誉会長逝去に伴い第三代名誉会長に濱野健品川区長が就任

● 設立からの31年～40年 《平成19年度～平成28年度》

年・月	センターの主なできごと
平成19. 1	前田いな前々会長逝去
平成19. 5	設立30周年記念式典をきゅりあん大ホールにて開催
平成20. 4	新常務理事・事務局長として田中実理事が就任
平成21. 1	シルバーしながわ全面カラー化
平成21. 4	おさらい塾再度開講
平成22. 4	品川区から区内各駅周辺の喫煙マナーアップ啓発事業の仕事を受注
平成22.10	出張着付け事業開始
平成23. 3	ゆたか支所リニューアル
平成23. 4	名称を社団法人から「公益社団法人品川区シルバー人材センター」に認定される
平成23. 4	役員改選により、戸川五郎理事が会長に就任
平成24. 4	第3次中期計画の策定
平成24. 4	安全就業の一環として就業現場巡回指導の実施
平成24. 4	新常務理事・事務局長として長田正理事が就任
平成24.10	顧客満足度調査
平成26. 4	シルバー人材活用ガイド（保存版）の作成
平成26. 7	東京都公益認定等審査会による立ち入り検査が実施
平成27. 4	新常務理事・事務局長として久保田孝之理事が就任
平成27. 7	安全就業の一環として「つま先立ち体操」を推奨開始
平成27. 6	副会長に本多美津子理事が就任
平成27.10	安全就業の一環としてKY運動、指さし呼称・唱和の推奨
平成27.10	お客様仕事満足度アンケート及び会員意識調査実施
平成28. 4	第4次中期計画の策定 「シルバー世代の活躍と地域貢献を目指して」
平成28. 4	安全就業ベストを全会員に配布
平成28. 4	ホームページ及び会員募集チラシの一新
平成28. 6	中大路満喜子前会長逝去
平成28. 7	会員同士の交流コーナーの整備（本部、東大井支所、荏原支部）
平成28. 8	事故再発防止講習会の実施
平成28.11	会員初心者向けパソコン講習会を実施
平成28.12	本多美津子副会長逝去
平成29. 1	新年全体等で「適正就業について」の研修実施

《平成29年度》

平成29. 6	設立40周年記念式典をきゅりあん大ホールにて開催
平成29.10	設立40周年記念品として、電波時計を全会員に配布

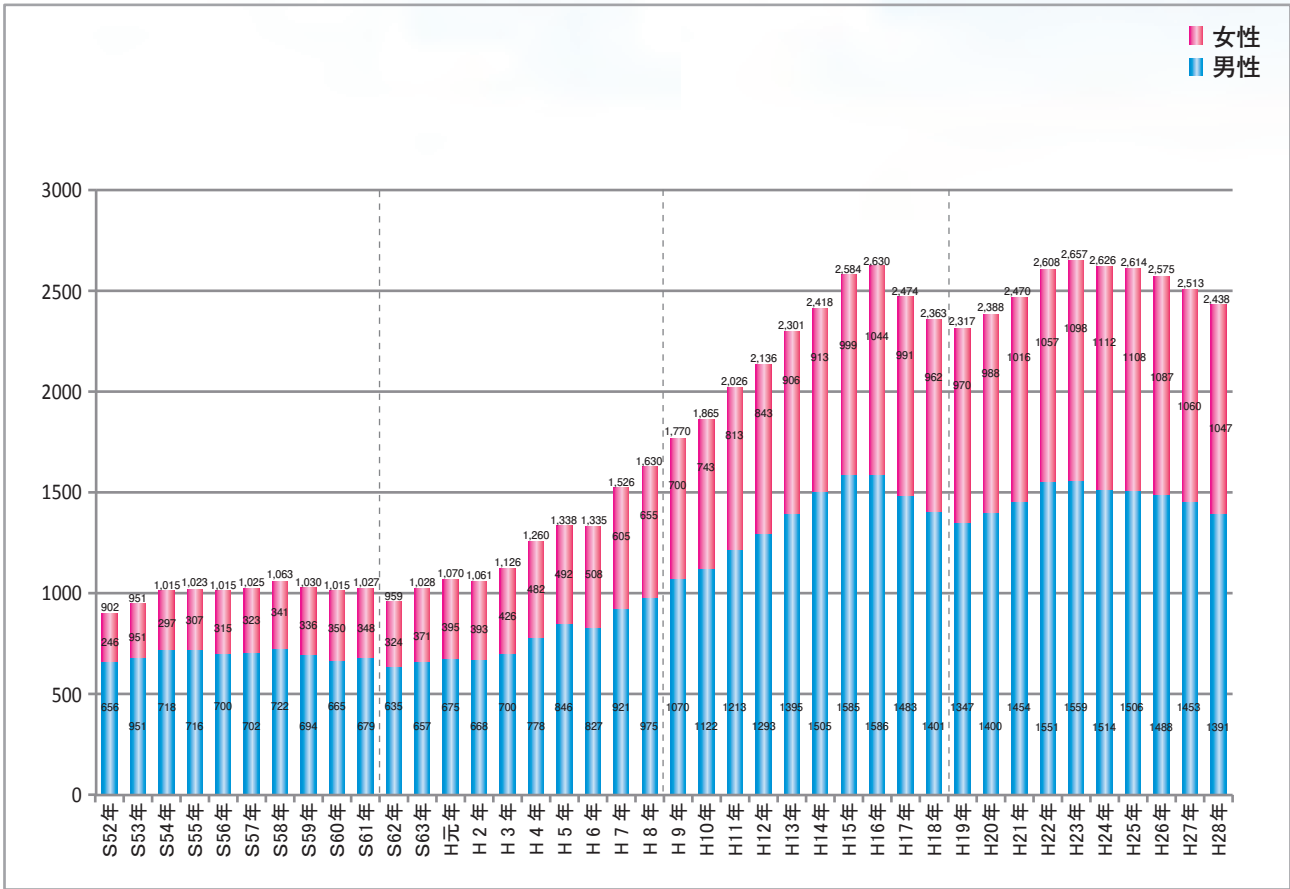
近10年役員名簿

役職名	氏名	平成21・22年度	平成23・24年度	平成25・26年度	平成27・28年度	平成29・30年度
名誉会長	濱野 健	[Bar]				
会長	中大路 満喜子	[Bar]				H28・6 逝去
	戸川 五郎		[Bar]	[Bar]	[Bar]	
	岩澤 政善				H29・6 就任	[Bar]
副会長	戸川 五郎	[Bar]	会長に就任			
	小野瀬 昌男		[Bar]	[Bar]		
	本多 美津子			H27・6	[Bar]	H28・12 逝去
	和泉 秀雄				H29・6 就任	[Bar]
常務理事	田中 実	[Bar]	~H24・3			
	長田 正		[Bar]	[Bar]		
	久保田 孝之			H27・4~	[Bar]	[Bar]
理事	宮地 恵美子	[Bar]				
	八木 節子	[Bar]				
	田平 豊子	[Bar]				
	菅井 康郎	[Bar]				
	佐久間 清	[Bar]				
	菊地 宣子	[Bar]				
	板垣 幸雄	[Bar]	[Bar]	[Bar]		
	高橋 寛一	[Bar]				
	石井 玲子	[Bar]	H22・3 監事に就任			
	上岡 眞一郎	[Bar]	H22・3 逝去			
	泉 隆一郎	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	
	田島 照三	[Bar]	H24.6 監事に就任			
	渡辺 幸次	[Bar]				
	小野瀬 昌男	[Bar]	副会長に就任			
	宮越 正信	[Bar]				
中川原 史恵		[Bar]	[Bar]			
堀越 明				[Bar]	[Bar]	

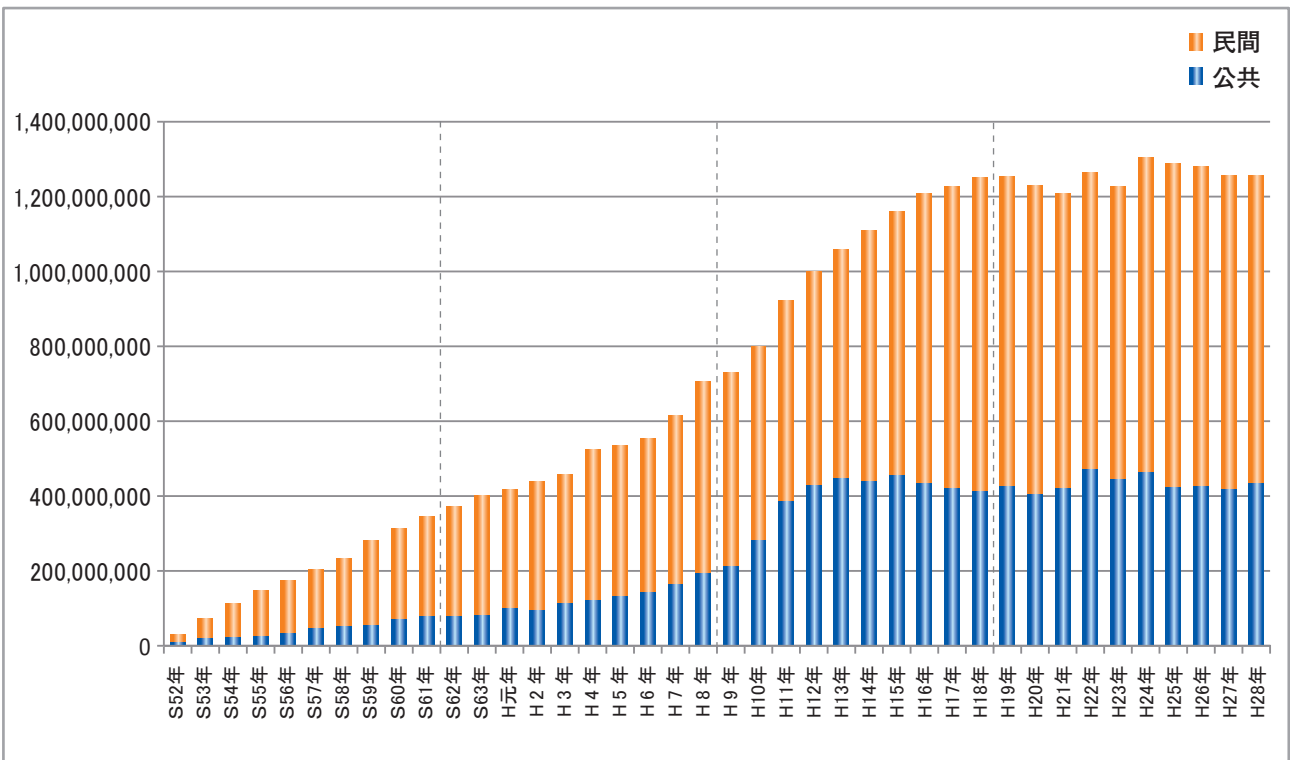
役職名	氏名	平成21・22年度	平成23・24年度	平成25・26年度	平成27・28年度	平成29・30年度
理事	戸川 五郎					
	和泉 秀雄					副会長に就任
	門馬 友子					
	伊藤 一三					
	浅田 トキ					
	本多 美津子					
	佐藤 利行					
	村田 芳久					
	柳下 恭治					
	阿部 昭男					
	野田 昌彌					
	中井 武美					
	岩澤 政善					会長に就任
	射水 健一					
監事	山崎 豊					
	松井 芳雄					
	石井 玲子					
	田島 照三					
	渡辺 優					

会員数・契約金額の推移

● 会員数



● 契約金額の推移



設立40周年記念事業実行委員会

委員名簿

役職	氏名	備考
委員長	戸川 五郎	会長
◎ 委員	和泉 秀雄	副会長
○ 委員	久保田孝之	常務理事
○ 委員	佐藤 利行 / 伊藤 一三 ※	理事
○ 委員	柳下 恭治	理事
委員	岩澤 政善	理事
○ 委員	野口サチ子	地区委員長
委員	板垣 幸雄	地区委員長
○ 委員	中畑 健一	地区委員長
委員	阿部 昭男	地区委員長
委員	渡辺 友之	地区委員長

※6月16日付で佐藤氏に代わり伊藤氏が就任しました。

○ 委員	相ヶ瀬加代子(事務局次長)	委員	和田裕美子(事務局次長)
委員	山崎 高裕(事務局次長)	○ 委員	白井 祐子(事務局主事)
○ 委員	菅井 竜也(事務局次長)	○ 委員	志村 直朗(事務局主事)

◎は記念誌実行委員長 ○は記念誌実行委員

編集後記

日本国内の100歳以上の高齢者は9月18日の「敬老の日」時点で67,824人もいらっしゃるそうです。

当センターも早いもので設立40周年を迎え、先日「きゅりあん」で記念式典が行われ、また、各地区で記念行事が行われました。それに伴い記念誌発行に向けて本年1月に実行委員会を立ち上げ、延べ6回の委員会を開催し、表紙の図案、写真、イラスト等々、各委員の協力のもと記念誌を作成することができました。これまでの足跡を次の世代に引き継いで、50周年、100周年へと当センターが発展することを願っております。

記 40周年記念実行誌実行委員長 和泉秀雄

40周年記念誌実行委員会



中央、和泉委員長を囲んで記念誌実行委員の皆さん

シルバー **しながわ** 第127号

設立40周年記念特集号

発行：公益社団法人品川区シルバー人材センター
〒140-0001 品川区北品川3-11-16
☎ 03 (3450) 0711 FAX 03 (3471) 6187
URL <http://www.sjc.ne.jp/shinagawa/index.htm>

発行日 平成29年10月31日
印刷 株式会社 欧文社

